

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 自立を支えあう地域づくり</p> <p>施策の方向性 : 地域包括支援センター機能の充実</p>													
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアマネジメント事業、 ・総合相談支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護事業 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援事業 												
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="617 2039 764 2852"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>1</td> <td>33.3</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>2</td> <td>66.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	1	33.3	B評価	0	0.0	C評価	2	66.7	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業の参加促進につなげる地域包括支援センターへの支援が必要である。 ・地域住民の地域包括支援センターの役割に対する理解促進が必要である。 ・地域包括支援センターの業務としての権利擁護事業の周知を図る必要がある。 ・引き続き小牧市地域包括支援センター運営協議会を中心に、高齢者の状態に応じた介護サービスや医療サービス、ボランティア活動、近隣住民同士の支えあいといった地域の様々な社会資源も活用しながら、継続的かつ包括的な地域包括ケアが行われる体制の構築を図っていく必要がある。 ・介護サービス事業所、ケアマネジャー、地域包括支援センターとの連携強化及び協力体制の構築がさらに求められる。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	1	33.3											
B評価	0	0.0											
C評価	2	66.7											
<p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ケアマネジメント事業：国の要綱の改正により、特に必要な場合のみプランを作成しプログラムへ参加することになったので、利用人数は減少しているが、介護予防事業の実施には必要。介護予防事業の参加につなげる支援が必要。 ・総合相談支援事業：地域包括支援センターの主たる業務である総合相談支援事業のおお一層の周知が必要。 ・権利擁護事業：高齢者数に対して権利擁護事業の相談件数が少ないため、地域包括支援センターの主たる業務である権利擁護事業の周知が必要。 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援事業：医療と介護の連携を考えるシンポジウムを開催。引き続き医療と介護の連携強化が必要。顔の見える関係づくりなど信頼関係の構築に支援が必要。 													
<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○地域包括支援センターの認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「知っている」が26.0%で前回調査(14.3%)と比較すると11.7ポイント上昇。 ・在宅の要介護認定者では、「知っている」が61.6%で前回調査(38.8%)と比較すると22.8ポイント上昇しており、「知っている」が「知らない」を上回っている。 <p>○地域包括支援センターの業務内容の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では「介護保険制度の説明・要介護認定申請援助」が57.6%と最も高く、次いで「介護に関する相談」が50.8%、「福祉サービス案内」が39.9%。一方、「消費者被害の防止」が6.8%、「成年後見制度の利用」が5.5%、「虐待への対応」が5.5%。 <p>○介護保険サービス事業所の地域包括支援センターの利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用したことがある」が74.2%となっており、前回調査(74.6%)とほぼ同等で、定着していることがうかがえる。 <p>○地域包括支援センターの利用内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護サービス事業所等関係機関との連絡調整の支援に関すること」が78.9%と最も高く、次いで「高齢者虐待に関する相談」が30.5%と前回調査(23.7%)と同様の結果となっている。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 自立を支えあう地域づくり</p> <p>施策の方向性 : 地域福祉の推進</p>	<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における活動や組織づくりの支援 ・社会福祉協議会との連携の強化 <p>・災害時要援護者支援制度の充実</p>	
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における活動や組織づくりの支援 : 民生委員については多岐分野にわたり活動内容が増えている状況において平成22年12月に171名から183名へ増員を行った。引き続き円滑な活動への協力支援を行う。 ・社会福祉協議会との連携の強化 : 「ふれあい・いきいきサロン」については地域ボランティアで運営しているため、人員確保が困難な状況にあり新規開設が進んでおらず、地域と行政及び各機関の調整役が必要。社会福祉協議会とは、引き続き各事業・各担当を通じた連携が円滑になされるよう努める。 ・災害時要援護者支援制度の充実 : 平成22年度よりひとり暮らし高齢者登録時に災害時要援護者台帳登録も呼びかけいる。平成21年度までのひとり暮らし高齢者登録者については、毎年更新を行う緊急通報システムの登録時に併せて災害時要援護者台帳登録を行えるよう進める。 		<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の手助けを求める声もあり、地域活動の促進やボランティア団体などへの支援を行うことで、地域での支えあい活動の推進が必要である ・豊かな知識や経験を持った高齢者が、地域でのさまざまな活動で活躍することが望まれる。 ・家族だけの支援では負担が重くなるため、高齢者への虐待などにつながらないよう地域住民が安否確認や声かけ等、個々にあるいは地域活動を通じて広く地域での見守り活動への参加意識を高めていくことが望まれる。 ・地域福祉を推進していくうえで、地域福祉の担い手である社会福祉協議会との連携・強化が必要である。 ・災害時の緊急避難場所の認知度を高めるとともに、災害時要援護者台帳登録を促進することが必要である。
<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○ボランティアに求める手助け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では「特にない」が52.0%と前回調査(37.3%)より高くなっている。次いで、庭掃除、家屋の修繕、家中の掃除が約1割 ・在宅の要介護認定者では「特にない」が21.9%と前回調査(19.2%)より高くなっている。次いで、話相手、通院の付き添い <p>○ボランティアとなり手助けできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「特にない」が33.7%と前回調査(27.1%)より高くなっている。 <p>(これらの結果は、同居者の状況について「いつも誰かは家にいる」が一般高齢者で67.7%と前回調査(63.6%)より高くなっていたり、在宅の要介護認定者で66.9%と前回調査(64.3%)より高くなっていることから、本市では同居の家族がいつも誰か家にいる世帯が約7割のため、一般高齢者で、ボランティアに対して手助けを求めたいこととして、「特にない」が高くなっているものと考えられる。また、在宅の要介護認定者では、介護保険サービスを利用していない理由で「家族が介護してくれるから」が56.9%と最も高くなっている。)</p> <p>○災害時の緊急避難場所の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では「知っている」が65.7%、「知らない」が27.7%。 ・世帯構成別に見ると、ひとり暮らしで、「知らない」が37.8%と割合が高くなっている。 ・在宅の要介護認定者では、「知っている」が38.8%、「知らない」が55.0% 		

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 自立を支えあう地域づくり</p> <p>施策の方向性 : 認知症ケアの充実</p>													
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成事業 ・家族支援プログラム ・徘徊高齢者家族支援サービス事業 													
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="630 2047 787 2873"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>2</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>1</td> <td>33.3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	2	66.7	B評価	0	0.0	C評価	1	33.3	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活機能評価からみて、「認知症」が懸念される人が多く、「認知症予防」のさらなる充実が必要である。 ・認知症ケアとして実施している、「認知症見守りネットワーク構築事業」と「認知症サポーター養成講座」であるが、まだ地域住民の理解・認識が十分とはいえないため、周知を図ることが必要である。 ・「認知症サポーター養成講座」において認知症に関して正しい理解をもった地域住民を増やし、見守り等そうした人々の活動の場を広げていくことが必要である。 ・認知症高齢者の増加が見込まれるなかで、認知症高齢者の介護者への支援も重要であり、地域包括支援センターにおける相談窓口の充実や家族支援プログラム、徘徊高齢者家族支援サービス事業の周知及び利用促進を図ることが必要である。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	2	66.7											
B評価	0	0.0											
C評価	1	33.3											
<p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成事業：認知症サポーター数は着実に増加している。今後は認知症サポーターに対するステップアップ講座を開催し、更なる認知症に対する知識の向上が必要。 ・家族支援プログラム：認知症高齢者の増加が見込まれるので、認知症高齢者の介護者支援を継続し、より参加につながるよう開催内容・方法を検討し、周知を図ることが必要。 ・徘徊高齢者家族支援サービス事業：認知症高齢者の増加に対して利用者数が少数であるので、認知症見守りネットワーク構築事業の推進とあわせて周知を図ることが必要。 <p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○生活機能評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、全ての年齢と地区で「認知症」が懸念される人の割合が最も高くなっている。 ・在宅の要介護認定者では、80歳以上で「認知症」が懸念される人の割合が約7割と高くなっている。地区別では、小牧南部地区以外は概ね7割と高くなっている。 <p>○認知症見守りネットワーク構築事業の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では「知らない」が52.6%。 在宅の要介護認定者では「知らない」が63.2%、一般高齢者に比べて約10ポイント高くなっている。 <p>○「認知症見守りネットワーク構築事業」への登録意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では「よくわからない」が72.3%。 <p>○「認知症サポーター」の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では「知らない」が57.8%。在宅の要介護認定者では「知らない」が64.0%。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 自立を支えあう地域づくり</p> <p>施策の方向性: 高齢者虐待の防止</p>													
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者虐待の防止 (高齢者虐待防止ネットワーク) 													
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">事業数</th> <th style="width: 10%;">割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者虐待の防止 (高齢者虐待防止ネットワーク) : 虐待防止ネットワークにより、初期の段階での相談・早期発見につながっている。引き続き各機関の連携により見守りを継続するなど地域での暮らしを支援する。 	区分	事業数	割合 (%)	A評価	1	100	B評価	0	0.0	C評価	0	0.0	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が高齢者虐待の実態に関心をもち、地域包括支援センターを軸とした高齢者虐待防止ネットワーク事業の理解を促すため、周知をはかる必要がある。 ・ 地域包括支援センターについては、今後、認知症高齢者などの増加に伴い、虐待や権利擁護に関する相談窓口として、市や警察等との連携強化が必要である。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	1	100											
B評価	0	0.0											
C評価	0	0.0											
<p>【アンケート調査の結果 (アウトカム) で把握した現状】</p> <p>○ 高齢者虐待の相談先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般高齢者では「市役所 (長寿介護課)」が55.8%、「警察署」が36.4%、「地域包括支援センター」は19.6%。 ・ 在宅の要介護認定者では一般高齢者同様に「市役所 (長寿介護課)」が最も高く47.8%となつていますが、次いで「地域包括支援センター」が31.0%となつており、地域包括支援センターの認知度と比例して要介護認定者においては一般高齢者に比べ割合が高くなつている。 <p>○ 地域包括支援センターの業務で「虐待への対応」の認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般高齢者で5.5%、在宅の要介護認定者で2.2% 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : いきいきとした高齢者づくり 施策の方向性: 社会参加の促進</p> <p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寿学園 ・老人クラブ活動の支援 ・シルバークラブ人材センターへの支援 	<p>○高齢者の就労希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「就労したいと思っている」が23.8%と前回調査(14.8%)より割合が高くなっている。一方、「就労したいと思っていない」が72.2%と「就労したいと思っている」に比べ高くなっている。 <p>年齢別では、前期高齢者で「就労したいと思っている」が約3割と後期高齢者に比べ高くなっている。</p> <p>○シルバークラブ人材センターの登録状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「現在、登録している」が3.9%、「登録したいと思う」が9.0%。一方、「登録したいと思わない」が55.6%。前回調査(49.9%)と比べて、「登録したいと思わない」が高くなっている。 												
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="638 2050 785 2873"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>1</td> <td>33.3</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>2</td> <td>66.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	1	33.3	B評価	0	0.0	C評価	2	66.7	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が、生涯学習として活動できる機会の拡充が必要である。 ・高齢者が、地域活動を通じてボランティアや町内会、自治会などの社会参加の促進を図ることにより社会貢献できる機会を増やしていくことが重要である。 ・高齢者が職場ではなく地域で、今まで培ってきた見識や技術などを発揮する場を作っていくことが大切である。 ・老人クラブの新たな運営のあり方の検討や活動内容の工夫が必要である。 ・シルバークラブ人材センターについては、会員数が増加しており、就労の場の開拓が必要である。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	1	33.3											
B評価	0	0.0											
C評価	2	66.7											
<p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寿学園：高齢化率は伸びているが、寿学園の生徒数は横ばい。団長を通じてPRするなど周知をきめ細かく行うことが必要。 ・老人クラブ活動の支援：高齢化率は伸びているが、老人クラブの会員数は横ばい。活動内容を工夫して実施する必要がある。 ・シルバークラブ人材センターへの支援：長引く不況のため、就業機会の拡大を図ることが難しいが、高齢化率の上昇のため、会員数が増加しており、就業機会の新規開拓が必要。 <p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○楽しみや生きがいを感じていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「家族との団らん」が42.3%と最も高く、次いで「趣味の活動」が34.0%、「働くこと」が26.8%。一方、「ボランティア」、「老人クラブ活動」、「町内会、自治会等の活動」、「今もっている得意分野を子どもや地区の方のために役立てる」などの地域参加の活動については、低くなっている。 <p>○今後やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「趣味の活動」が17.8%と最も高く、次いで「学習や教養を高めるための活動」が16.8%、「ボランティア」が12.4%となっています。 <p>○老人クラブの加入状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「加入している」が22.8%、「加入していない」が75.1%。 年齢別で見ると、年齢が下がるにつれ「加入している」が低くなっており、65～69歳では「加入している」が8.3%。一方、75歳以上で「加入している」が高く、85歳以上で48.5%。 ・老人クラブに加入していない理由について、一般高齢者では、「今はまだ加入したくない。もう少し年齢が上がったら検討する」が44.9%と最も高く、次いで「興味がない」、「他の趣味活動のクラブ等に加入しているので老人クラブに加入しようとは思わない」。 年齢別で見ると、65～69歳では「仕事をもって加入できない」、「“老人”と言われるのは抵抗がある」の割合が高くなっています。75歳以上で「興味がない」の割合が高くなっている。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : いきいきとした高齢者づくり 施策の方向性: 健康づくりと介護予防の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブでの健康相談・健康教育: 希望する老人クラブは決まっておらず、今まで利用のない老人クラブにも利用してもらうPR方法等の工夫が必要。 ・老人福祉センターでの健康相談: 各施設職員のPRにより、利用人数の増加につながっている。今後もより多くの方に利用してもらうために相談体制について検討していくことが必要。 ・出前講座による各種介護予防教室: 申込み状況をみると申し込みまれる団体が固定化しつつある。新しい団体からの申込みを増やしていくよう広く啓発していくことが必要。 ・保健連絡員活動: 健康づくりのための活動は行っているが、今後はより地区ごとの状況 (高齢化率や健康問題など) に着目・特化した活動を展開していくことが必要。 												
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防普及啓発事業 ・地域介護予防活動支援事業 ・特定高齢者把握事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターでの健康相談 ・出前講座による各種介護予防教室 ・保健連絡員活動 												
<p>3 評価 (CHECK)</p>	<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○生活機能評価の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「二次予防事業対象者」(旧 特定高齢者) が28.4%。「認知症」が懸念される人が38.4%。年齢別にみると、年齢が上がるほど「二次予防事業対象者」が高くなる傾向にあり、特に85歳以上においては、85歳未満に比べ、各項目ともに割合が高くなっている。 ・在宅の要介護認定者では「運動器の機能」に問題があると懸念される人が68.0%と高く、次いで「認知症」が66.2%、身体機能の低下、認知症が懸念される。 <p>○自分の歯の本数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、80歳で自分の歯を20本残す「8020運動」の目標を達成している人は、80歳から84歳で19.6%、85歳以上では、13.4%となっており、在宅の要介護認定者においてもほぼ同様の結果となっている。 <p>○健康に対する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「健康のために自分の生活スタイルを変えようとは思わない」が4.1%と前回調査(18.7%)に比べ低くなっている。また、「医者に注意されるまで生活を変えるつもりはない」が2.7%と前回調査(10.8%)に比べ低くなっている。 <p>○日常生活における不安なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者で、「あなたご自身や家族の健康のこと」が57.5%、「あなたご自身や家族の介護のこと」が23.1%と、健康・介護に関する内容が上位にあがっています。 <p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態調査において、多くの高齢者が自身や家族の健康や介護について不安をかかえており、積極的に健康づくりに取り組めるよう年齢や地域特性に応じた健康づくりの施策を検討していく必要がある。 ・平成23年度より二次予防事業対象者把握事業により、対象者の大幅な増加が予想され、地域包括支援センターが中心となって、対象者に対して介護予防の必要性を説明し、事業の参加につなげていくことが必要である。 ・介護予防事業については、利用者が伸び悩んでいたり、利用者・団体が固定化していたりするため、事業の周知を図るとともに、多くの人が利用しやすい環境づくりが必要である。 												
<p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防普及啓発事業: 高齢者が多く集まる場所でも効果的に啓発を行うことが必要。 ・地域介護予防活動支援事業: 既に活動しているグループは地域に目を向け介護予防について活動が進められているが、地域により活動団体のない地域もある。 ・二次予防事業対象者把握事業: 平成23年度より基本チェックリストの判定のみで対象者を把握するので、対象者の大幅な増加が予想され、地域包括支援センターの役割が重要。 ・通所型介護予防事業: 実施場所、実施回数等が対象者にとって利用しやすい体制整備が必要。高齢化率は伸びているが、介護予防教室の参加が少ないため、民間業者の活用などにより魅力ある教室の開催が必要。 ・訪問型介護予防事業: 地域包括支援センターとの連携により利用実績は伸びているが、継続支援の必要なケースも多く支援の方法が課題となっている。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>4</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>4</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	4	50.0	B評価	0	0.0	C評価	4	50.0
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	4	50.0											
B評価	0	0.0											
C評価	4	50.0											

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 高齢者が自立した暮らしを続けられるシステムづくり</p> <p>施策の方向性 : 生活支援の充実</p>	<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○介護保険サービス以外の保健・福祉サービスの利用意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「緊急通報システム装置設置」が 55.4%と最も高く、次いで「生活リハビリ指導」が 51.4%、「訪問指導」が 51.1%、「家族介護用品の支給」が 50.9%、「紙おむつの給付」が 50.2%。 <p>○介護保険サービス以外の福祉サービスの利用意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の要介護認定者では、「紙おむつの給付」、「家族介護用品の支給」の割合が高く、5割を超えている。 <p>○介護者が一時的に不在の場合の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の要介護認定者では、「できるだけ不在にならないようにしている」が 40.9%と最も高く、次いで「短期入所（ショートステイ）を利用する」が 28.4%、「デイサービスやホームヘルパーなどの利用回数を増やす」が 26.8%。 <p>○要介護認定を受けていながらサービスを利用していない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族が介護してくれるから」が 56.9%で最も高くなっている。 												
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス ・高齢者等健康診断書料助成事業 ・成年後見制度利用支援事業 ・寝具乾燥クリーニング ・訪問美容サービス ・外出支援サービス ・補聴器の給付 ・高齢者住宅改修支援事業 ・リフォームヘルパー派遣事業 ・高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 ・外国人高齢者給付金の支給 ・入所措置 ・ホームヘルプサービス ・軽度生活援助サービス ・食の自立支援事業（配食サービス） ・日常生活用具給付事業 ・緊急通報システムの設置 ・煙感知警報器の設置 													
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="730 2050 877 2861"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>9</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>2</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>7</td> <td>38.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	9	50.0	B評価	2	11.1	C評価	7	38.9	
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	9	50.0											
B評価	2	11.1											
C評価	7	38.9											
<p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス：高齢化率は伸びているが、利用者数が横ばい。利用可能な施設を確保することが必要。 ・高齢者等健康診断書料助成事業：引き続き利用者及び介護保険サービス事業者に対し制度の周知を図る。 ・成年後見制度利用支援事業：認知症高齢者の増加に伴い、成年後見制度を利用する高齢者は増加すると予測されるため、事業の周知を図ることが必要。 ・寝具乾燥クリーニング：利用方法やサービス内容の検討とあわせ事業の周知が必要。 ・訪問美容サービス：利用者ニーズに対応するためサービス内容の検討や事業の周知が必要。 ・外出支援サービス：利用者ニーズに応じ利用しやすい工夫や事業の周知が必要。 ・補聴器の給付：事業廃止 ・高齢者住宅改修支援事業：介護保険制度や障害者サービスの住宅改修とあわせて、利用者及び事業者に対し事業の周知が必要。 ・リフォームヘルパー派遣事業：住宅改修の事前相談時に利用者及び事業者に対し事業の周知が必要。 ・高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業：高齢者世話付住宅の同居者の在宅支援に必要である。また、各種センサーの誤報があるため、利用方法への工夫検討が必要。 ・外国人高齢者給付金の支給：外国人高齢者に給付金を支給することで在宅生活の安定を図るために必要。 ・入所措置：高齢化率は伸びており、高齢者虐待等により在宅生活が困難な高齢者が増加。また、近年の不況に伴い、経済的虐待の増加が懸念される。 ・ホームヘルプサービス：高齢化率は伸びているが、利用者数が横ばい。現在「家事援助サービス」としてシルバークンターの会員を派遣しているため、家事援助の提供が可能な会員を確保することが必要。利用者負担を介護保険制度に準じたものから、1時間未満100円としたことにより費用負担は減少している。 ・軽度生活援助サービス：高齢化率は伸びているので、利用者数もやや伸びている。今後も利用者の拡大を図り、シルバークンターの雇用促進にもつなげていきたい。 ・食の自立支援事業（配食サービス）：高齢化率は伸びているが、利用者数は伸び悩んでいる。安否確認を行う効果もあることから、利用促進につなげるため使いやすい工夫や事業の周知を図ることが必要。 ・日常生活用具給付事業：高齢化率は伸びているので、利用者数もやや伸びている。利用者ニーズに応じ、給付内容を検討したり今後も事業の周知を図ることが必要。 ・緊急通報システムの設置：高齢化率の伸びとともに、利用者は増えており、在宅生活の安定を図るために必要。 ・煙感知警報器の設置：消防法の改正により住宅用火災警報器の設置は義務化されており、在宅生活の安全を図るために必要。 	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険のサービス以外で、在宅介護の負担を軽減するための支援など地域住民が生活状況に応じて必要な福祉サービスを利用できるよう、事業の周知を図る必要がある。 ・ 本人やその家族のニーズに応じた事業の充実と利用促進を図る必要がある。 												

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 高齢者が自立した暮らしを続けられるシステムづくり</p> <p>施策の方向性 : 在宅介護者への支援</p>													
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねたきり高齢者等介護者手当 ・家族介護用品の支給 ・家族介護者に向けた講座の開催 													
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="636 2050 783 2864"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>1</td> <td>33.3</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>2</td> <td>66.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	1	33.3	B評価	0	0.0	C評価	2	66.7	
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	1	33.3											
B評価	0	0.0											
C評価	2	66.7											
<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護者の知識・技術の取得のための講座などの周知と利用促進を図り、在宅介護者やその家族への支援が必要である。 ・ 在宅介護者は、心身の負担が大きくなるが多く、在宅介護者への負担を軽減していく必要がある。 <p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねたきり高齢者等介護者手当：高齢化率の伸びとともに、受給者数は増えており、介護者に手当を支給することにより在宅生活の支援を図ることが必要。 ・家族介護用品の支給：高齢化率は伸びていますが、利用者数は伸び悩んでいます。支給用品の見直し等内容の工夫と合わせて、事業の周知を図ることが必要。 ・家族介護者に向けた講座の開催：介護者の知識・技術の取得は必要であるが、受講者数は伸びておらず、開催事業者との連携を充実させ開催内容・方法を検討したり事業の周知を図ることが必要。 <p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○介護保険サービス以外の保健・福祉サービスの利用意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般高齢者では、「緊急通報システム装置設置」が55.4%と最も高く、次いで「生活リハビリ指導」が51.4%、「訪問指導」が51.1%、「家族介護用品の支給」が50.9%、「紙おむつの給付」が50.2%。 <p>○介護保険サービス以外の福祉サービスの利用意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の要介護認定者では、「紙おむつの給付」、「家族介護用品の支給」の割合が高く、5割を超えている。 <p>○今後の介護の方法の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅での介護を希望している人が4割以上。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

1 計画 (PLAN)	基本目標 : 高齢者が自立した暮らしを続けられるシステムづくり 施策の方向性 : 施設の整備												
2 実施 (DO)	<p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養護老人ホーム ・ ケアハウス ・ 老人福祉センター 												
3 評価 (CHECK)	<p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養護老人ホーム : 地域包括ケア体制の推進を図るため当面整備は行いません。 ・ ケアハウス : 地域包括ケア体制の推進を図るため当面整備は行いません。 ・ 老人福祉センター : 平成22年度、第2老人福祉センターの新設により、利用者が増加。 <p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別養護老人ホーム等の施設への入所の申し込み状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅の要介護認定者で「入所の申し込みをしている」が13.9%。 ○ 申し込み施設の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「特別養護老人ホーム」が60.0%と最も高く、次いで「老人保健施設」が20.0%、「グループホーム（認知症対応型共同生活介護）」が11.3%。 ○ 特別養護老人ホームなど介護施設への入所を希望しながら入所できない人に対して、複数の高齢者が施設の一角を交互に利用する仕組み（ホームシェアリング）の利用意向 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「利用したい」が約3割。 	区分	事業数	割合 (%)	A評価	1	100	B評価	0	0.0	C評価	0	0.0
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	1	100											
B評価	0	0.0											
C評価	0	0.0											
問題・課題のまとめ													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護老人ホームとケアハウスについては、現状として整備予定はありません。 ・ 老人福祉センターについては、第2老人福祉センターを新設し、利用者の増加につながっており、今後も地域の高齢者の健康・生きがいづくりの拠点として充実していく必要がある。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 介護保険サービスの充実と質の向上・給付の適正化</p> <p>施策の方向性 : 居宅・介護予防サービス</p>	<p>○ケアマネジャーとその作成した計画の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の要介護認定者では「満足・やや満足」という人が46.0%と5割を下回っている。 <p>○現在利用しているサービスの満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不満・やや不満」が、すべて1割未満。 												
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (介護予防) 訪問介護 ・ (介護予防) 訪問入浴介護 ・ (介護予防) 訪問看護 ・ (介護予防) 訪問リハビリテーション ・ (介護予防) 居宅療養管理指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (介護予防) 特定福祉用具販売 ・ (介護予防) 福祉用具貸与 ・ (介護予防) 住宅改修 ・ 介護予防支援・居宅介護支援 												
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="682 2047 840 2864"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>2</td> <td>14.3</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>12</td> <td>85.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業展開した中での現状】</p>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	2	14.3	B評価	0	0.0	C評価	12	85.7	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態調査から早期の段階からサービスを適切に利用し、身体状態の改善や維持、悪化の防止に役立っている状況が伺える。 ・ 在宅介護を基本とした地域包括ケアを推進する必要がある。 ・ 利用者とケアマネジャーの信頼関係が重要である。 ・ 研修や情報交換など関係機関と連携をとり、ケアマネジャーのさらなる質の向上を図るとともに、一方で、ケアプランチェックなど給付の適正化に向けた取組の充実が必要である。 ・ 今後も、利用者が満足できるサービス提供を行うよう、引き続き事業者のサービスの質の向上及び法令遵守への支援を図る必要がある。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	2	14.3											
B評価	0	0.0											
C評価	12	85.7											
<p>A評価 : 介護予防訪問入浴介護、居宅療養管理指導・介護予防居宅療養管理指導、介護予防通所介護、特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護、予防福祉用具貸与、介護予防住宅改修、介護予防支援</p> <p>B評価 : -</p> <p>C評価 : 訪問介護・介護予防訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護・介護予防訪問看護、訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション、短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護、短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護、福祉用具貸与、特定福祉用具販売・特定介護予防福祉用具販売、住宅改修、居宅介護支援</p>													
<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○介護サービスの利用状況や今後の利用意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の要介護認定者の「利用中のサービス」では、通所介護の割合が高く、5割を占めている。 <p>○利用したいが利用できないサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定施設入居者生活介護の割合が高く、1割を超えている。 ・全てのサービスで前回調査と比較すると割合が低くなっており、介護サービスが充実したことがうかがえる。 <p>○今後、利用したいと思っているサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所介護を除いた全てのサービスで2割台から3割台となっており、また、前回調査と比較すると割合が高くなっており、介護サービス利用に対するニーズは高まっている。 <p>○居宅介護サービスの利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サービスを利用している」が53.5%、「サービスを利用していない」が40.9%。 <p>○介護サービスを利用する前と比べての身体状態の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「良くなった」、「やや良くなった」を合わせた「良くなった人」が44.7%。 <p>○サービスを利用していない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族が介護してくれるから」が56.9%で最も高く、次いで「もう少し悪くなったら利用したい」が38.1%となっており、要介護度別にみても要支援2から要介護4までは、「家族が介護してくれるから」が最も高くなっている。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN) 基本目標 : 介護保険サービスの充実と質の向上・給付の適正化 施策の方向性 : 地域密着型サービス</p>													
<p>2 実施 (DO) 【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (介護予防) 認知症対応型通所介護 ・ (介護予防) 小規模多機能型居宅介護 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (介護予防) 認知症対応型共同生活介護 ・ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 												
<p>3 評価 (CHECK) 【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="642 2050 789 2873"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>1</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>3</td> <td>75.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業展開した中での現状】</p> <p>A評価 : ー</p> <p>B評価 : 介護予防認知症対応型共同生活介護、地域密着型介護老人福祉施設</p> <p>C評価 : 認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護・介護予防小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護</p>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	0	0.0	B評価	1	25.0	C評価	3	75.0	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域密着型サービスは、可能な限り住み慣れた地域において継続した生活を目指す地域包括ケアの取組において重要なものである。 ・ 認知症対応型通所介護や認知症対応型共同生活介護は、増加傾向にある認知症高齢者が利用するサービスで、サービス提供量などニーズに対応していく必要がある。 ・ 今後、他の地域密着型サービスも含め需要と供給のバランスを図り、整備を行っていくことが必要である。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	0	0.0											
B評価	1	25.0											
C評価	3	75.0											
<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○在宅の要介護認定者が要介護となった原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活習慣病」が33.1%と最も高く、次いで「老人性認知症」が24.4%、「高齢による衰弱」が21.6%。 <p>○施設の要介護認定者が要介護となった原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「老人性認知症」が45.7%と最も高く、次いで「生活習慣病」が35.5%。 <p>○在宅の要介護認定者の介護サービスの利用状況や今後の利用意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域密着型サービスで認知症対応型共同生活介護を「利用したいが利用できないサービス」と位置づける人が9.5%となっています。 <p>○地域密着型サービスで今後、利用したいと思っているサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症対応型通所介護が27.9% (前回調査18.3%)、小規模多機能型居宅介護が29.5% (前回調査14.5%)、認知症対応型共同生活介護25.1% (前回調査14.8%)と前回調査に比べ増えている。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 介護保険サービスの充実と質の向上・給付の適正化</p> <p>施策の方向性 : 施設サービス</p>													
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人福祉施設 ・介護老人保健施設 ・介護療養型医療施設 													
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="636 2050 783 2873"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【事業展開した中での現状】</p> <p>A評価 : 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護療養型医療施設</p>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	3	100.0	B評価	0	0.0	C評価	0	0.0	
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	3	100.0											
B評価	0	0.0											
C評価	0	0.0											
<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設サービス利用者における介護が必要となった原因で「老人性認知症」が最も高く、家族のすすめで施設へ入所しているケースが多いことがうかがえる。 ・入所者の尊厳を守るためにも、施設サービスの質の向上に向けたより一層の取組が必要である。 <p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○施設の要介護認定者で介護が必要となった原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「老人性認知症」が45.7%と最も高く、次いで「生活習慣病」が35.5%。 <p>○施設入所のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族にすすめられて」が42.6%と最も高くなっている。 <p>○施設の要介護認定者の入所後の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今のままで良い」が78.1%と最も高くなっており、「事情が許せば自宅にもどりたい」、「自宅近所に施設があれば替わりたい」をあわせた、住み慣れた地域で過ごしたい人は7.1%。 <p>○施設の要介護認定者の介護サービスに対する満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」が39.8%、「普通」が53.8%、「不満」が4.2%。 ・「満足」の理由については、「体調への日常的な配慮」、「トイレやおむつの介助の対応」が7割台と高くなっている。 													

第4次小牧市高齢者保健福祉計画 施策別評価シート

<p>1 計画 (PLAN)</p> <p>基本目標 : 介護保険サービスの充実と質の向上・給付の適正化 施策の方向性 : 介護サービスの質的向上の促進</p>	<p>【アンケート調査の結果で把握した現状】</p> <p>○事業所におけるサービスの質の確保・向上を図るための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サービス提供者の介護技術向上のための研修や講習会の実施・参加」「利用者に対する態度や対応などマナーについての研修や講習会の実施・参加」「事業所内での従業員間の情報の共有化、検討会の実施」を行っているが8割を超えている。 ・前回調査と比較すると、「利用者に対する態度や対応など、マナーについての研修や講習会の実施・参加」で「行っている」が高くなっています。一方、「利用者に対する態度や対応など、マナーについての研修や講習会の実施・参加」、「利用者とのトラブルや事故防止のための研修の実施・参加」、「従業員個々の自己評価の実施」で「検討中」が低くなっている。 												
<p>2 実施 (DO)</p> <p>【具体的事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス事業者振興事業 ・居宅介護支援専門員現任研修事業 ・介護職員現任研修事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護相談員派遣事業 ・介護サービスに関する情報提供の充実 ・介護給付等費用の適正化 												
<p>3 評価 (CHECK)</p> <p>【事業の進捗状況で把握した現状】</p> <table border="1" data-bbox="619 2047 766 2873"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>事業数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A評価</td> <td>2</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>B評価</td> <td>1</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>C評価</td> <td>1</td> <td>25.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	事業数	割合 (%)	A評価	2	50.0	B評価	1	25.0	C評価	1	25.0	<p>○平成21年度までの収支の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「収支がとれている」が65.6%と前回調査(50.8%)に比べ14.8ポイント高くなっている。 <p>○介護保険サービス事業を行ううえでの問題点や課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人材(従業者)の確保が困難」が41.4%と前回調査(63.8%)に比べ、22.4ポイント低くなっている。 <p>○介護保険サービス事業を行ううえで、行政に支援等をしてほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「最新の介護保険制度情報の提供」が56.3%と最も高く、次いで「処遇困難者への対応またはその支援」が52.3%、「介護支援専門員やサービス提供者の技術向上の支援(研修の実施等)」が34.4%。 ・前回調査と比較すると、「最新の介護保険制度情報の提供」、「介護支援専門員やサービス提供者の技術向上の支援(研修の実施等)」、「利用者のいる市町村の高齢者保健福祉事業に関する情報提供」、「事業者間の連携強化の支援」、「事業所のPR活動に関する支援(広報等を通じた事業所PR等)」、「介護支援専門員やサービス提供者のための相談窓口の設置」、「他の介護保険サービス提供事業者に関する情報の提供」が低くなっている。 <p>○居宅介護支援事業所の介護支援専門員が、連携が十分行えていると思う外部機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護サービス事業所」が89.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」46.4%、「かかりつけの医師」が39.3%。特に「かかりつけの医師」は前回調査(19.7%)と比べ19.6ポイント上昇している。
区分	事業数	割合 (%)											
A評価	2	50.0											
B評価	1	25.0											
C評価	1	25.0											
<p>【事業展開した中での現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス事業者振興事業：より多くの介護サービス提供事業所に参加してもらえよう事業を継続。部会内で事業所職員交換研修の実施により提供サービスの質の向上に努めている。 ・居宅介護支援専門員現任研修事業：参加しやすい曜日、時間帯を考慮することにより、より多くの介護支援専門員に参加していただき、ケアプランの質の向上に努める。 ・介護職員現任研修事業：個々のニーズに合う研修を展開する必要がある。 ・介護相談員派遣事業：継続的な活動が必要。相談員の質の向上のため他市相談員との情報交換も取り入れられている。 ・介護サービスに関する情報提供の充実：要介護(要支援)認定者全員に対して、介護保険の制度やサービスの周知をするためのものであり、今後より分かりやすく、充実した内容を提供できるよう創意工夫する必要がある。 ・介護給付等費用の適正化：ケアプランを検証する知識や方法を習熟する必要がある。 	<p>問題・課題のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス事業者連絡会を通じた情報提供や医療機関等との連携、事業所職員を対象とした研修など、今後も介護保険サービスの質の向上のため事業の継続と内容の充実が必要である。 												